



と き 2026年5月21日(木) 10:00~11:30

浜屋顔

訪問先 介護老人福祉施設さかい幸朋苑 境港市誠道町 2082

出席者 【委員】 川口 昭一、遠藤 恵子



- 【さかいエリア】 濱田 壮 (さかいエリア総合施設長)
- 竹林 正孝 (介護老人福祉施設さかい幸朋苑 医師)
- 池淵 美香 (介護老人福祉施設さかい幸朋苑 介護課長)
- 渡部 真也 (介護老人福祉施設さかい幸朋苑 主任相談員)
- 野坂 賢一 (介護老人福祉施設さかい幸朋苑 主任介護士)
- 渡部 和義 (介護老人福祉施設さかい幸朋苑 主任介護士)
- 【法人本部】 荒井 祐二 (監 事)



SAKAI Area Report

荒井監事：本日は、1987年4月に開設した「さかい幸朋苑」を見学していただきます。ふれあいの橋の会は、施設見学が中心となっていますが、本年度のさかいエリアは、こうほうえんが重点的に取り組む事業についても紹介したいと考えています。本日は、「ユマニチュード」について、委員の皆さんに紹介するとともに、施設見学で気づいたことを提言していただきます。

■さかいエリアの現況

濱田総合：さかいエリアの現況については、大きな変化はありません。家族会については、初期の目標を達成したとして解散する方向にありますので、ふれあいの橋の会への参加を呼びかける予定でいます。また、家族会でノーリフティングケアを紹介したところ非常に好評だったことを踏まえ、今年度はユマニチュードなどの取り組み紹介に加え、法人研究発表会でさかいエリアが発表した内容も紹介したいと考えています。

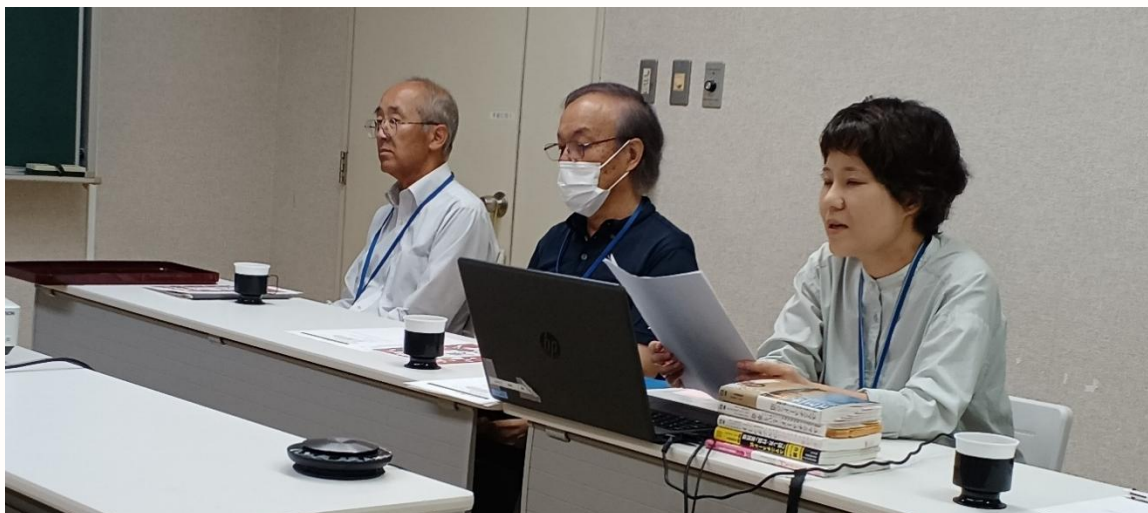
①



■法人の取り組み（ユマニチュード）

池淵課長：ユマニチュードは、フランスのイブ・ジネストとロゼット・マレスコッティの2人が開発したケア技法です。2人は体育学の教師で、病院の看護師の腰痛問題改善の依頼を受けて病院に入り、40年以上の実践をもとに体系化されました。日本では本田美和子氏が導入。認知症の方を主な対象としますが、子供や万人に対しても効果がある技法です。認知症が進行すると、まず短期記憶が困難になり、次に長期記憶も順番で失われていきます。最後まで残るのが感情記憶であるため、ユマニチュードは「あなたは大切な存在」という優しさや愛をご利用者にわかる形で伝えることで感情に働きかける技法となっています。・・・・・・・・・・・・・・・・

※別添資料に基づき、説明は続きますが、紙面の都合で中略します。



さかいエリアでの取り組み：昨年、池淵課長と野坂主任介護士を含む8名の職員が、東京のにしおおい幸朋苑のケアホーム（インストラクター資格を持つ田中とも江施設長）で研修を受けました。今年1月と2月には、にしおおい幸朋苑から田中施設長ら3名を招き研修を実施。1回3時間の研修を7回開催。さかいエリアから235名、法人全体で370名が受講。さかいエリアの職員は約400名であり、半数以上が受講したことになります。

実践事例の紹介（動画）：入居以来一度も歩いていなかった方（前施設から歩けないとされていた方）に対して、渡部主任を中心に歩行訓練を実施しました。初日は職員2名で支えながらたどたどしく歩行。2ヶ月後の4月には、歩行器を使って自宅の庭（集合住宅の庭）で、奥様が植えた花を見に行くことができました。本人も感極まって涙を流し、長崎から親戚も駆けつけるなど、大きな成果となりました。この方は歩行訓練を中止した期間に、むせや食事の困難さなど機能低下が見られましたが、歩行を再開すると改善が見られました。歩くことが全身の筋肉を使い、全身の機能維持に重要であることを実感しました。

川口委員：60歳で認知症になった同級生がいました。出会ったときには私を認識し会話もできましたが、帰宅後には出会ったことを忘れてしまったようです。昨日の講習会で、看護師から「認知症は早めに見つけて早めに治療すれば対応が変わる」という話がありました。ユマニチュードのようなケアを知っていれば、認知症の人も進行を遅らせたり、普通の人と変わらない生活ができるのではと思いました。

池淵課長：関わり方をご利用者に不安を与えると、脳内でコルチゾールというストレスホルモンが増え、認知症がさらに進むと言われていきます。安心感のある生活が、認知症の進行抑制に重要な取り組みとなっているようです。

興味深い事例として、濱田総合施設長が手配した豪華客船見学に参加したご利用者の話を紹介します。通常は、当日の出来事をすぐに忘れてしまう認知症の方ですが、「今日は豪華客船に乗ってすごく良かった」と話されたようです。これは素晴らしい体験で、嬉しく楽しかったという感情記憶とエピソードが重なり記憶に残った一例です。ネガティブな感情も残りやすいですが、とても良い感情は、記憶障害があっても残るようです。

遠藤委員：ユマニチュードは優しい心が基本ですが、一人で認知症の母を介護していた私は、24時間優しい心ではいられませんでした。先ほど見た動画のように、2人で支えて立たせるなどの対応は一人ではできません。イライラしている時でも、呼ばれたら行かないといけません。施設では、沢山の職員がいて一緒に支えてくれますが、一人での介護は大変です。



荒井監事：歩けるようになった方について、取り組みのきっかけは何だったのですか。

渡部主任介護：1年に1回の結核検診の際に、職員2人で対応した時に立てました。その時はまだユマニチュードを知らなかったときですが、可能性を感じて一歩歩いていただいたら20mくらい歩きました。しかしその1回で終わってしまったのです。今回、イブ・ジネスト氏の研修を受けて「立つ」ことの重要性を理解し、改めて取り組みを開始しました。

荒井監事：14年前にデンマークに海外研修に行った際、「デンマークには、寝たきりのお年寄りはいません」と言い切っていました。重度障害や疾病がある人が入所している病院でも、日中は寝かせず、ベッドに座った状態にしていました。特別養護老人ホームでは、各居室を自分好みに整え、できるだけ椅子に座らせようとしていました。ユマニチュードの「立つ」という考え方と共通しているように思いますが、どうでしょうか。



竹林医師：ユマニチュードは、全入居者に適用できるわけではありません。認知症を主な対象とした疾患へのアプローチであり、脳血管系疾患や高次脳機能障害などには別の対応が必要です。ただし、基本的な考え方や利用者への接し方は共通する部分があります。職員の皆さんにやる気があり、早くから効果の兆しも見えていますので、素晴らしい試みだと思います。ぜひ続けてほしいですね。欧米ではデンマークに限らず、ほとんどが寝かさないようにしています。日本には寝たきりが多いですが、生活様式や考え方が相違するからだと思います。座ったままが良いわけでもないですが、いたずらに寝かして自由を奪うことへの反省を含めて、ユマニチュードをはじめとする**新しい方向性**を考える必要があります。さかいエリアでは、職員の皆さんが積極的に取り組んでおり、成果が期待されます。

■施設の現況・課題

荒井監事：さかい特養の現況報告をお願いします。

竹林医師：特養での**常勤医師**は、全国的に非常に少なく、統計の取り方によりますが1~2%、多くても5%以内と言われています。つまり、良くて20施設に1施設しか医師が常勤していないということになります。こうほうえんでは、基本的に特養でも常勤医師を配置しています。**医師がいることでの安心感**は、持っただけだと考えています。入居者が亡くなる数や入院される数も増えており、土日にも対応しています。感染症（コロナ、インフルエンザ）についても、この地域の対応を担当していますが、大きな流行もなく経過しています。自分があることが少しでもメリットになるよう、今後も対応していきたいと思います。

野坂主任：**ノーリフティング**（抱え上げない介護）について、昨年全国大会で法人の取り組みを報告し入賞。鳥取県福祉学会でも報告し、奨励賞を受賞しました。こうほうえんのノーリフティングの取り組みは全国的にも鳥取県内でも認められてきています。リフトや道具を駆使して、職員の腰痛予防やご利用者の怪我の予防に取り組んでいます。こうほうえんの規模で統一して展開できていることは強みです。成功事例や失敗事例を共有しながら、**ノーリフティングの質を向上**させています。特定技能の職員や新しい職員への技術指導も行い、全員が同じ技術を安全に提供できるようにしていきたいと考えています。

渡部主任相談員：特養の入居申し込みや入退居の調整を担当しています。特養は、基本的に要介護3以上が対象で、看取りも実施しています。5月1日現在のさかい特養の状況は、平均年齢:87.8歳 平均要介護度:4.29、男性23名、女性67名で比較的重度の方が多い施設です。昨年度1年間で、施設で亡くなられた方が28名。その他、医療機関や自宅に退居された方が6名。境港市内の特養は3事業所あり、全てこうほうえんが運営しています。待機者数は、さかいエリア63名、よなごエリア192名、なんぶエリア178名。**さかいエリアは、よなごエリアに比べて待機人数が少なく、入居しやすい状況**にあります。

渡部主任介護：特養には現在、外国人（**特定技能実習生**）が4名在籍しています。昨年10月に3名、2年前に1名入職。若くて元気で、ご利用者に優しく、接しておられます。昨年10月入職の職員は、7月頃に夜勤をスタートできる見込みです。

歩行訓練への取り組みを紹介しましたが、職員のモチベーションが大きく向上しました。ご利用者の目標達成という明確な目的があることで、職員一人ひとりの力がより発揮されていると実感しています。特に、職員同士のコミュニケーションが活発になりました。1階フロアには経験年数の浅い職員が多いのですが、さまざまな視点から意見を出し合い、**チームワークの良い環境**が自然と生まれています。

歩行訓練を行っていたご利用者が膝の痛みで一時中止すると、むせや食事のしづらさなど、全身の機能低下が見られました。歩行は全身の筋肉を使うため、歩かない期間が続くと筋力が低下し、さまざまな場面で支障が出ることを、職員で改めて認識しました。その後、痛みが軽減して歩行訓練を再開すると、むせの症状も徐々に改善してきました。今回の経験を通して、歩くことが全身の機能維持にどれほど重要であるかを改めて実感しています。今後は、この方が元野球をされていたことから、キャッチボールができないかという話が出ており、風船で投げる練習を始めています。奥様や地域の方の協力を得て、ご本人を支えていきたいと思っております。



■施設内外の点検・提言

荒井監事：施設内を見学していただきました。配布しました評価表（①建物、施設内、周辺 ②職員の態度、接遇 ③ご利用者へのサービス ④地域交流）のチェック項目を照合し、気づいた点を指摘してください。

遠藤委員：歩くことが大切だという話がありました。私は膝が悪く、近くの公民館に行くにもアシスト付きの電動自転車を使用してしまいます。今後はできるだけ歩くよう心掛けます。施設内を見学しましたが、職員の皆さんは、明るく元気に挨拶されました。入居者の皆さんは、昼食前で、リビングにお揃いでしたが、表情が明るく安心しました。

川口委員：施設内は、掃除が行き届き、綺麗にされていました。中庭は新緑の時期で、日常的に緑を感じますのでいいと思います。梅雨に入りますと、雑草が生い茂りますのでこまめに除草されるようお願いいたします。さかい幸朋苑は、常勤の医師が配置されていますので、入居者は安心ですね。私は、ことぶき倶楽部の会長をしていますが、傾聴ボランティアで訪問していました。傾聴は、自分から喋るのではなく相手の声を聞くというやり方です。以前、話ができない方に、花を摘んで持っていったらすごく喜んでいただきました。傾聴ボランティアは、新さかいエリアで再開していますが、誠道（さかい幸朋苑）でも再開に向けたいと思っています。

池淵課長：ぜひ再開をお願いします。

川口委員：5月15日（金）にナマステホールで「ことぶき倶楽部演芸会」を開催しましたが、多くのご利用者が参加され大変盛り上がりました。今後とも継続したいと考えています。

池淵課長：今回は、境港市内の施設利用者全員を対象にしましたので、多くの皆さんに参加いただきました。多彩な演目が用意されていまして、皆さんが感動していました。有難うございました。今後ともよろしくお願ひします。

濱田総合：今回は、ユマニチュードの取り組みを紹介しました。家族会でノーリフティングケアを紹介した際、「自分の親がこんなに良いケアをしていただいているとは知らなかった」という声がありました。PR不足だったことを再認識しましたので、今後は今回のような取り組みを紹介していきたいと考えています。忌憚のないご意見をいただきながら、見直しをしていきます。

荒井監事：次回は、6月18日（木）10：00～ **デイハウスせいどう、生活支援ハウス**を予定しています。



ナマステホール



さかい幸朋苑